

**令和2事業年度
公立大学法人新潟県立看護大学の
業務実績に関する評価結果**

**令和3年8月
新潟県公立大学法人評価委員会**

目 次

1	はじめに	1
2	年度評価の仕組み	2
3	評価結果	
(1)	全体評価結果	3
(2)	大項目別評価結果	5
4	参考	
◇	指標（数値目標）の達成度一覧	17
◇	業務実績評価（年度評価）実施要領	18
◇	評価委員名簿	22
◇	令和2年度業務実績報告書	別添

1 はじめに

公立大学法人新潟県立看護大学は、新潟県における看護教育・研究の中核的機関として、教育研究活動に励み、多様に変化する社会ニーズに柔軟に応じうる資質の高い看護人材を育成するとともに、その成果を絶えず地域社会に還元し、看護学の発展と保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的とし、「高度な看護人材の供給と確保」、「地域課題の研究・発信」、「国内外の関係機関との連携」を基本方針に位置づけ、その達成に向けて取り組んでいる。

新潟県公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法に基づき、新潟県立看護大学の業務実績について、事業計画に基づく取組の進捗状況を検証の上、客観的、専門的かつ総合的な視点で、年度評価を行った。

令和2年度は、喫緊の課題として新型コロナウイルス感染症への対応が求められる中、法人は、学長を中心として教職員一丸となり、早急なオンライン授業等への対応、感染症対策を講じた上での早期の対面授業再開や臨地実習への移行、大学構内の通信環境整備など、学生が安全に学修に取り組むことができる環境の充実に努めたところである。

コロナ禍のような未曾有の状況の中においても、大学が社会的使命を十分に果たすべく、当評価委員会が行う評価が、法人の自主的かつ継続的な業務運営の見直し・改善を促し、教育研究の質的向上、業務の効率化及び透明性の確保に資することを期待する。

令和3年8月

新潟県公立大学法人評価委員会 看護大学部会

部会長	下	條	文	武
委員	神	代	聡	子
委員	勝	島	朝	子
委員	金	川	克	子

2 年度評価の仕組み

(1) 評価の根拠

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 78 条の 2

(2) 評価の対象

令和 2 年度における法人の中期計画（平成 31 年 3 月知事認可）の進捗状況

(3) 評価の基準

公立大学法人新潟県立看護大学の各事業年度の業務実績評価（年度評価）
実施要領（平成 25 年 11 月 22 日新潟県公立大学法人評価委員会決定）

(4) 評価の経緯

令和 3 年 6 月 25 日	法人から業務実績報告書の提出
7 月 16 日	第 1 回看護大学部会開催（中項目別評価の審議）
8 月 10 日	中項目別評価を法人に提示
8 月 18 日	法人から中項目別評価案に対する意見の提出
8 月 27 日	第 2 回看護大学部会開催 （大項目別評価、全体評価の審議）
8 月 27 日	評価書の確定

3 評価結果

(1) 全体評価結果

評価結果	中期計画の進捗は『順調』である
------	-----------------

ア 評価理由

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期するため、理事長をトップとする対策本部や遠隔授業導入チームを設置し、感染症対策に係る各種課題に迅速かつ機動的に対応しながら、業務全般の安定した遂行と中期目標の達成を目指し、特に「教育」、「業務運営の改善及び効率化」及び「その他の業務運営」の分野で、多くの実績が認められた1年であったと言える。

教育に関する事項では、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、学生が安全に学修できる教育環境の整備、きめ細やかな学生支援等を行い、学生の授業内容への満足度や国家試験合格率が高い水準となるなど、大学の使命である高度な看護人材の育成・輩出に、多くの実績が認められた。

業務運営等に関する事項では、新型コロナウイルス感染症対策のための施設整備が必要となったが、適切に対応した。また、大規模修繕において発注の工夫により大幅な経費節減を行うなど、特筆すべき実績が認められた。また、安否確認システムによる速やかな緊急情報の伝達や、感染症対策に配慮した避難スペースの確保など、学生や教職員、地域住民の安全確保に尽力する姿勢が認められた。

新潟県立看護大学に対し、本県の看護教育・研究の中核的機関として、資質の高い人材を供給する役割が期待される中、最も重要となる「教育研究上の質の向上に関する事項」については、年度計画を上回る実績が多く認められたところであり、令和2年度の新潟県立看護大学の業務実績については、総合的に勘案した結果、全体として中期計画の進捗は『順調』に推移しているものと判断した。

イ 特筆すべき取組、顕著な成果

- 授業評価アンケートによる学生の授業内容満足度の高さ【教育】
- 国家試験合格率の高水準の維持【教育】
- コロナ禍における地域住民に向けた事業の着実な実施【地域貢献・国際交流】
- 新型コロナウイルス感染症対応に係る環境整備、機動的な対応【教育】【業務運営】
- 大規模修繕における大幅な経費節減【業務運営】
- 会計ルールハンドブックの作成【業務運営】
- 安否情報システムの活用、感染症対策に配慮した避難スペースの確保【業務運営】

ウ 主な課題・改善点、今後に向けた提言・期待

- アフターコロナにおける学部生、大学院生の確保に繋がる取組【教育】
- 著書件数、論文件数の増加に繋がる取組【研究】
- オンライン形式等を活用した国際交流の定着【地域貢献・国際交流】
- 地域住民が利用する際にも配慮した設備の計画的な改修工事の実施【業務運営】

エ 項目別評価結果一覧

全体評価	大項目別評価		中項目別評価		
順調	教育研究上の質の向上に関する事項	1 教育に関する事項	A 順調	(No.1) 学生の確保	b 年度計画を概ね実施
				(No.2) 教育の内容	a 年度計画を上回る
				(No.3) 教育の実施体制	a 年度計画を上回る
	(No.4) 学生への支援			a 年度計画を上回る	
	2 研究に関する事項	B 概ね順調	(No.5) 研究水準及び成果等	c 年度計画を十分に実施せず	
			(No.6) 研究実施体制の整備等	a 年度計画を上回る	
	3 地域貢献・国際交流に関する事項	B 概ね順調	(No.7) 地域社会ニーズへの対応	b 年度計画を概ね実施	
			(No.8) 地域社会との連携	b 年度計画を概ね実施	
			(No.9) 国際交流	c 年度計画を十分に実施せず	
	4 業務運営の改善及び効率化に関する事項	A 順調	(No.10) 運営体制の改善	a 年度計画を上回る	
			(No.11) 人事の適正化	a 年度計画を上回る	
			(No.12) 事務の効率化・合理化	a 年度計画を上回る	
	5 財務内容の改善に関する事項	B 概ね順調	(No.13) 自己収入の増加	b 年度計画を概ね実施	
			(No.14) 経費節減	b 年度計画を概ね実施	
(No.15) 資産の運用管理の改善			a 年度計画を上回る		
6 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する事項	B 概ね順調	(No.16) 自己点検・評価の実施	a 年度計画を上回る		
		(No.17) 情報公開の推進	b 年度計画を概ね実施		
7 その他業務運営に関する事項	A 順調	(No.18) 法令遵守の推進	a 年度計画を上回る		
		(No.19) 施設の効率的整備	s 年度計画を大幅に上回る		
		(No.20) 危機管理	s 年度計画を大幅に上回る		
		(No.21) 人権の保護	b 年度計画を概ね実施		
		(No.22) 情報セキュリティ対策	b 年度計画を概ね実施		

(2) 大項目別評価結果

大項目1 教育に関する事項	
評価結果	A：中期計画の進捗は『順調』である
ア 評価理由 <p>新型コロナウイルス感染症の影響の下、募集活動が制限されるとともに、地元志向の高まりなど受験生の動向が変化する中で、法人を取り巻く環境は厳しいものとなった。学部においては、従来の大学説明会や高校訪問に加えて、オンライン等を活用した周知を積極的に行ったが、志願倍率は目標を下回り、前年度から大きく低下した。大学院においては、対面・オンライン併用の大学院説明会等を実施したが、前・後期課程ともに入学者は募集定員に達しなかった。学部・大学院ともに志願者の確保について検証を行い改善に向けた取組を期待する。</p> <p>学生による授業評価アンケートでは、学生の授業内容満足度は目標値を上回る高水準となっている。</p> <p>国家試験合格率に関しては、助産師が8年連続で100%を達成、看護師、保健師においても高水準を維持しており、いずれも全国平均を上回った。</p> <p>就職希望者の就職率は98.9%、県内就職率は前年度を上回る66.7%と目標を概ね達成した。</p> <p>また、休校期間中における遠隔授業のサポートや新入生のためのオンラインによる交流の企画など、感染症対応に最優先で対応しながら、学生が安心して学ぶことができる環境を整備した。</p> <p>これらの実績を評価し、教育に関する事項については、「順調」に推移しているものと判断した。</p>	

イ 中項目別評価結果

(No.1) 学生の確保【b：年度計画を概ね実施】

学部では、オンラインによるオープンキャンパスの実施や、Zoomやメールを活用した個別相談会など手法を変えて取り組み、さらに大学説明会や高校訪問を増やすなど、学生確保に向けた努力がうかがえる。県外受験者数が減少するなど、新型コロナウイルス感染症拡大や近隣に看護系の大学等が新設されたことなどの影響により、志願倍率は3.1倍であった。

大学院においても、対面・オンライン併用の大学院説明会等を実施したが、前・後期課程ともに入学者は募集定員に満たない結果となった。

新型コロナウイルス感染症の影響等で、今後も志願倍率が低い状況が続くことが懸念される。引き続き資質の高い看護人材を育成していくためにも、より一層の大学の知名度向上、志願者確保に向けた取組が望まれる。

(No.2) 教育の内容 【a：年度計画を上回る】

コロナ禍において、遠隔授業の実施とともに、早期の対面授業再開や臨地実習への移行など、状況を見極めながら教育の質の確保に努めたことは評価できる。

学内ポータルを活用した学年別到達目標到達状況のアンケートや、遠隔授業を利用した少人数制教育の強化に係る意見交換を実施しており、今後も教育方法や内容の充実に向けた効果的な教育の質保障体制の取組を期待する。

(No.3) 教育の実施体制 【a：年度計画を上回る】

大学構内のWi-Fi環境の整備や大学院生専用の遠隔授業用スペースの設置、レセプションホール等における飛沫防止板の設置、自習室のパソコンの入替など、感染症対策や学生の意見・要望を踏まえた学習環境の整備が行われている。

また、学外からリモートアクセスができるデータベース・電子ジャーナルの拡充により、学生によるデータベース検索利用件数、リポジトリアクセス件数ともに増加したことは、コロナ禍で増加した需要に的確に対応したものとして評価できる。

(No.4) 学生への支援 【a：年度計画を上回る】

キャリア支援に関しては、ゼミ担当教員と国家試験対策・就職委員が常に連携しながら学生に対する学習指導を継続しているほか、国試対策指導を行う教員を対象としたセミナーを実施した。国家試験合格率は、助産師が8年連続で100%を達成し、看護師、保健師においても高水準を維持しており、いずれも全国平均を上回った。また、大学院CNSコース修了生に対する勉強会の開催など支援を行った結果、2名が老人看護の専門看護師認定審査に合格した。

新型コロナウイルス感染症対策による休校期間中でも、学年担任による遠隔授業のサポートや個別相談を行い、特に新入生に対しては、オンラインを活用した交流などを企画し、大学生活に早く適応できるよう取り組んだことは評価できる。

【参考】指標（数値目標）の進捗状況一覧

中項目	指標	R2 目標値	R2実績値	達成度【達成率】
(No.1) 学生の確保	◆No.2 志願倍率	4.3倍	3.1倍	△ [72.1%]
(No.3) 教育の実施体制	◆No.3 学生の授業内容満足度 (5段階評価の平均)	4.2点	4.3点	◎ [102.4%]
(No.4) 学生への支援	◆No.1 国家試験合格率 ※ ○概ね達成 (全国平均値以上～100%未満)	100%	看護師：99.0% (全国平均：95.4%) 保健師：97.8% (全国平均：97.4%) 助産師：100% (全国平均：99.7%)	○ [99.0%] ○ [97.8%] ◎ [100.0%]
	◆No.4 就職希望者の就職率	100%	98.9% (全国平均：98.7%)	○ [98.9%]
	◆No.5 新卒者（全学）の県内就職率	69%	66.7%	○ [96.7%]
	◆No.5 新卒者（県内出身）の県内就職率	85%	77.9%	○ [91.6%]

* 指標の達成度 = ◎達成 (100%以上) ○概ね達成 (80%以上～100%未満) △やや遅れている (60%以上～80%未満) ▲遅れている (60%未満)

大項目2 研究に関する事項

評価結果

B：中期計画の進捗は『概ね順調』である

ア 評価理由

新型コロナウイルス感染症への対応に注力せざるを得ない状況の中、論文件数や著書件数が目標を下回ったものの、学内研究成果発表会の活用やコンサルテーションシステムによる個別指導・学習機会の提供などに継続的に取り組んだ結果、研究論文の被引用件数が目標値を大幅に上回るとともに、外部研究資金申請可能者の申請率が81.3%と高水準となったことは評価される。

社会環境が大きく変化し、ニーズが多様化している中で、査読付き論文件数や著書件数の増加につなげていくための取組の強化を期待する。

これらの状況を総合的に評価し、研究に関する事項については、全体として「概ね順調」に推移しているものと判断した。

イ 中項目別評価結果

(No.5) 研究水準及び成果等【c：年度計画を十分実施せず】

若手教員の研究計画立案に向けた学習機会（R. P. C. CAFÉ）には13名の参加があり、また、新たに開催した科学研究費申請書の提出直前のブラッシュアップの機会（駆け込みR. P. C.）を1名が活用した。また、科学研究費獲得のための説明会や研修会を開催し、参加者アンケートで高い満足度を得たことは評価できる。

論文の被引用件数が目標を大幅に上回った一方で、感染症対策を講じた上での早期の臨地実習への移行などが最優先課題であり、また、学会の中止により報告の機会も減少するなど研究環境が厳しかったことから、著書件数、論文件数（査読付き論文件数）、学会報告件数はいずれも目標を下回る事となった。

今後も研究環境は厳しい状況が続くことが予想されるが、引続き、著書や論文件数等の増加につながるような研究体制の整備に向けた取組を強化されたい。

(No.6) 研究実施体制の整備等【a：年度計画を上回る】

科学研究費など外部資金に関する学内説明会の開催、研究助成金獲得等に資する図書購入などの取組により、外部研究資金の獲得件数は24件と前年度に引き続き目標を上回った。また、学内研究成果発表会やコンサルテーションシステムによる個別指導、学習機会の提供などの継続的な取組により、外部研究資金申請件数は新規の研究による申請が可能である教員が減少する中、申請率は81.3%と高水準を維持していることは評価できる。

大学リポジトリへの学術論文の登録が増加するとともに、リポジトリ閲覧件数が前年度から1割（2千件）増加するなど、研究成果のデータベース化やその活用を図る整備が進んでいる。

【参考】指標（数値目標）の進捗状況一覧

中項目	指標	R2 目標値	R2実績値	達成度 [達成率]
(No.5) 研究水準及び 成果等	◆No.6 著書件数	10件	6件	△ [60.0%]
	◆No.7 論文件数	72件	49件	△ [68.1%]
	◆No.7 論文（査読付き）件数	65件	42件	△ [64.6%]
	◆No.8 学会報告件数	123件	97件	△ [78.9%]
	◆No.9 論文の被引用件数 (参考) 大学における研究発表会の 開催件数	33件 4件	70件 1件	◎ [212.1%] ▲ [25.0%]
(No.6) 研究実施体制の 整備等	◆No.10 外部研究資金申請件数	35件	26件	△ [74.3%]
	◆No.10 外部研究資金獲得件数	20件	24件	◎ [120.0%]

* 指標の達成度 = ◎達成 (100%以上) ○概ね達成 (80%以上~100%未満) △やや遅れている (60%以上~80%未満) ▲遅れている (60%未満)

大項目3 地域貢献・国際交流に関する事項

評価結果

B：中期計画の進捗は『概ね順調』である

ア 評価理由

新型コロナウイルス感染症拡大の状況下にあっても、事業の重要性や地域からの要望を踏まえ、地域貢献の取組を臨機応変に実施したことは評価できる。

国際交流に関しては、前年度コロナ禍で実施できなかった海外研修プログラムについて、現地学生やホストファミリーとの交流を含むオンライン研修に計画を変更したものの、最少催行人数に満たず中止となったが、オンラインでの国際交流がコロナ後においても定着することが望まれることから、学生が参加しやすい研修とするなど、国際交流が一層促進されることを期待する。

これらの状況を総合的に評価し、地域貢献・国際交流に関する事項については、全体として「概ね順調」に推移しているものと判断した。

イ 中項目別評価結果

(No.7) 地域社会ニーズへの対応【b：年度計画を概ね実施】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域のうつ病のある人の語り合いの場を4月から休止したが、事業の重要性を考慮して、6月から感染防止策を徹底した上で再開し、地域住民の健康維持の一助を担った。また、同様に4月から図書館における学外者の利用を制限していたところであったが、多数寄せられた要望により10月から利用制限を緩和し、予約制・短縮時間で運営するなど、感染防止を図りながらも地域のニーズに応えるべく臨機応変に対応したことは評価できる。

看護研究交流センターによる出前講座を施設・団体等からの要望に応じて11件実施するとともに、地域課題研究の応募件数の増加に向け、募集案内を強化した結果、応募が13件と大幅に増加するなど、感染症対策を徹底しながら地域貢献の取組を着実に実施したことは評価できる。

(No.8) 地域社会との連携【b：年度計画を概ね実施】

例年、上越地域振興局健康福祉環境部との共催で実施していた上越地域看護研究発表会については、新型コロナウイルス感染症の影響により、病院施設等で業務量が増加し研究者が研究に取り組むことが困難であった状況を考慮し、令和2年度は中止したが、令和3年度は遠隔操作を視野に入れた発表会を見据え、企画の準備を進めている。

行政機関・各種団体における審議会等の委員委嘱数については、積極的な教員の参加により、43人と目標を概ね達成した。

(No.9) 国際交流【c：年度計画を十分に実施せず】

前年度コロナ禍で実施できなかった、クライストチャーチ工科大学（学士課程に看護学、助産学を有するニュージーランドの総合教育機関で平成 29 年包括交流協定を締結）での海外研修プログラムについては、現地学生やホストファミリーとの交流を含むオンライン研修に変更し計画を進めた。結果的に最少催行人数に満たず中止となったが、中止決定後、オンライン海外研修に対する学生ニーズを把握するなど、次年度のオンラインプログラムの実施に向けた取組を進めている。

新型コロナウイルス感染症の影響により、国際交流活動には様々な制限があることやオンラインでの国際交流がコロナ後においても定着することが望まれることから、学生ニーズを踏まえたオンラインプログラムの開発を期待する。

【参考】指標（数値目標）の進捗状況一覧

中項目	指標	R2 目標値	R2実績値	達成度【達成率】
(No.7) 地域社会ニーズへの対応	◆No.11 公開講座（開催件数）	25回	—	—
	◆No.11 公開講座（聴講者数）	1,720人	—	—
	◆No.11 公開講座（満足度） （5段階評価の上位2位の割合）	89%	—	—
	◆No.15 マスメディアに取り上げられた 件数（新聞掲載数）	210件	268件	◎ [127.6%]
	◆No.12 看護職リカレント教育登録者数	19人	4人	▲ [21.1%]
(No.8) 地域社会との連携	◆No.13 研究指導等講師派遣数	81人	62人	△ [76.5%]
	◆No.14 審議会等委員委嘱数	47人	43人	○ [91.5%]
	◆No.16 臨床現場・行政機関と人事交流を 行う人数（2年以上の者）	1人	1人	◎ [100.0%]
(No.9) 国際交流	◆No.17 海外大学との交流提携校数	調査検討	—	—
	◆No.18 海外大学等との交流人数（学生）	6人	—	—
	◆No.18 海外大学等との交流人数（教員）	3人	—	—

* 指標の達成度＝◎達成（100%以上） ○概ね達成（80%以上～100%未満） △やや遅れている（60%以上～80%未満） ▲遅れている（60%未満）

大項目4 業務運営の改善及び効率化に関する事項

評価結果

A：中期計画の進捗は『順調』である

ア 評価理由

理事長をトップとする新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、オンライン授業への迅速な対応など機動的に対応した。徹底した感染防止対策を講じた上で必要な対面教育を適切に実施するなど大学運営したことは評価できる。また、保健師養成課程の選抜制導入による質の高い保健師育成の方向性を明確にしたことは評価できる。

事務局職員については、事務局内異動によるプロパー職員の育成など、先を見据えた運営をしている。事務局職員の学生対応に関する学生満足度は目標値を上回っている。

新型コロナウイルス感染症対応など突発的に増加した業務に、部門を越えて調整し、柔軟に対応したことは評価できる。

これらの実績を評価し、業務運営の改善及び効率化に関する事項については、「順調」に推移しているものと判断した。

イ 中項目別評価結果

(No.10) 運営体制の改善【a：年度計画を上回る】

理事長をトップとする新型コロナウイルス感染症対策本部の設置、遠隔授業導入チームの立ち上げにより、早急なオンライン授業の実施や徹底した感染防止対策を講じた上で必要な対面教育を実施するなど、機動的に対応し、感染者を出さずに運営したことは評価できる。

保健師養成課程の選抜制導入により、保健師教育を充実・強化したことは評価できるものであり、保健師国家資格試験合格率の目標達成に資するものと期待する。

(No.11) 人事の適正化【a：年度計画を上回る】

年間を通じた公募により、すべての科目群で教員の適正配置を実施している。

事務局職員については、令和元年度に改訂したプロパー職員採用計画に基づき、プロパー職員を1名採用し、県からの派遣職員を1名減とした。また、多岐にわたる業務に対応できるプロパー職員の育成のため事務局内異動を行うなど、先を見据えた運営をしている。

事務局の学生対応に関する学生満足度は85.8%と目標値を上回っており、コロナ禍において相談が多様化する中、学生への支援をきめ細やかに行ったことがうかがえる。

【No.12】事務の効率化・合理化【a：年度計画を上回る】

教員の産休・育休に伴う代替職員の確保が困難であったことから、教員内で業務調整を行った上で、看護研究交流センターの事務職員が事務補助を行い、また、遠隔授業の円滑な実施に向け、同センター職員が ICT 面で非常勤講師の支援を行うなど、部門を越えて業務を調整し、柔軟に対応したことは評価できる。

【参考】指標（数値目標）の進捗状況一覧

中項目	指標	R2 目標値	R2実績値	達成度 [達成率]
(No.10) 運営体制の改善	◆No.23 業務改善率（監査指導等）	100%	指摘なし	—
(No.11) 人事の適正化	◆No.19 教員が適正に配置されている科目群の割合	100%	100%	◎ [100.0%]
	◆No.20 客員・特任教員の人数	10人	10人 客員教授2人 特任講師8人	◎ [100.0%]
	◆No.21 任期制・年俸制を適用している教員の割合	13%	15.7% (任期6、年俸2(8/51))	◎ [120.8%]
	◆No.22 事務局の対応学生満足度（5段階評価の上位2位の割合）	79%	85.8%	◎ [108.6%]

* 指標の達成度 = ◎達成（100%以上） ○概ね達成（80%以上～100%未満） △やや遅れている（60%以上～80%未満） ▲遅れている（60%未満）

大項目5 財務内容の改善に関する事項

評価結果

B：中期計画の進捗は『概ね順調』である

ア 評価理由

外部研究資金の獲得に結びつく研究計画立案を目的とした研修会の開催など、努力は認められるが、外部研究資金比率は1.6%と目標を下回った。外部研究資金の獲得に向けて、着実に成果が上がるよう引き続き取り組まれない。

電気契約を一般競争入札で実施するなど、経費削減に努めるとともに、資産の運用管理については、施設整備の長寿命化に向けて計画的に修繕等を行っている。

これらの状況を総合的に評価し、財務内容の改善に関する事項については、全体として「概ね順調」に推移しているものと判断した。

イ 中項目別評価結果

(No.13) 自己収入の増加【b：年度計画を概ね実施】

自己収入比率は35.0%と前年度より上昇し目標値を上回った一方、外部研究資金の獲得に結びつく研究計画立案を目的とした研修会の開催など、学内支援の努力は認められるが、外部研究資金比率は1.6%と目標を下回った。既存の取組の継続はもちろんのこと、成果に着実に結びつくような対策を検討の上、取り組まれない。

(No.14) 経費節減【b：年度計画を概ね実施】

前年度に引き続き電気契約の一般競争入札を行い、経費削減に向けて取り組んでいることは評価できる。

(No.15) 資産の運用管理の改善【a：年度計画を上回る】

前年度に引き続き、施設設備の長寿命化に向けて施設の状況を綿密に把握し、計画的に修繕等を行っている。

また、トイレの洋式化や遠隔授業の導入に伴うWi-Fi環境の整備など新型コロナウイルス感染症対策を適切に実施したことは評価できる。

【参考】指標（数値目標）の進捗状況一覧

中項目	指標	R2 目標値	R2実績値	達成度【達成率】
(No.13) 自己収入の増加	◆No.24 自己収入比率 (自己収入/経常収益)	33.0%	35.0%	◎ [106.1%]
	◆No.25 外部研究資金比率 (外部研究資金/経常収益)	2.3%	1.6%	△ [69.6%]

* 指標の達成度＝ ◎達成（100%以上） ○概ね達成（80%以上～100%未満） △やや遅れている（60%以上～80%未満） ▲遅れている（60%未満）

大項目6 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する事項

評価結果

B：中期計画の進捗は『概ね順調』である

ア 評価理由

大学基準協会の平成29年度の認証評価で指摘された努力課題に関する改善報告書を提出し、対応を完了した。

大学のホームページの改善により、アクセス件数が増加傾向にあり、目標を大きく上回っている。

これらの状況を総合的に評価し、自己点検・評価及び情報公開の推進に関する事項については、全体として「概ね順調」に推移しているものと判断した。

イ 中項目別評価結果

(No.16) 自己点検・評価の実施【a：年度計画を上回る】

教員が職位別に自己評価をすることで、職位による評価項目の差が生じないようにし、かつ現職位での活動内容を自己点検できるよう工夫した。優秀者2名には学長表彰を行った。

また、大学基準協会の平成29年度の認証評価で指摘された努力課題に関する改善報告書を提出し、対応を完了した。

(No.17) 情報公開の推進【b：年度計画を概ね実施】

個人情報を含むUSBメモリ紛失防止の観点から、共有ドライブ内に領域単位で利用できる専用フォルダを新設し、情報共有ができる環境を整えた。

大学のホームページについては、アクセス件数も増加傾向にあるので、大学のイメージ向上と学生確保に向けた情報提供に加えて、地域社会に向けての大学特有の情報を発信するホームページとなるよう工夫に努められたい。

【参考】指標（数値目標）の進捗状況一覧

中項目	指標	R2 目標値	R2実績値	達成度 [達成率]
(No.16) 自己点検・評価の実施	◆No.26 自己点検・評価に基づく改善率	100%	指摘なし	—
(No.17) 情報公開の推進	◆No.27 ホームページへのアクセス件数	900,000件	1,337,856件	◎ [148.7%]

* 指標の達成度 = ◎達成 (100%以上) ○概ね達成 (80%以上~100%未満) △やや遅れている (60%以上~80%未満) ▲遅れている (60%未満)

大項目7 その他業務運営に関する事項

評価結果

A：中期計画の進捗は『順調』である

ア 評価理由

施設整備計画に基づき点検・修繕を実施した。また、大規模修繕の発注方法を工夫し、複数工事を一本化すること等で、当初見積価格より14百万円削減しており、大学の予算規模を考慮すると大いに評価できる。

上越市の要請を受け、感染症対策に配慮した避難所のスペースについて、従来の2倍の人数分のスペースを提供できるようにするなど、地域の災害対応に大きく貢献している。

ハラスメント防止及び意識啓発のため、学生及び教職員に大学の取組の周知を行い、社会の動向に応じて研修会を開催している。

情報セキュリティ対策について、令和2年2月にUSBメモリを紛失した事案への対処として、共有ドライブ内に領域単位で利用できる専用フォルダを新設し、個人情報やUSBメモリに記録しないこととした。

これらの実績を評価し、業務運営に関する事項については、全体として「順調」に推移しているものと判断した。

イ 中項目別評価結果

(No.18) 法令遵守の推進【a：年度計画を上回る】

研究費等の厳正な取扱いについて会計ルールハンドブックを作成し、また公的研究費で購入した物品の現品管理をルール化したことについて、不正行為発生を牽制する組織風土を作るものとして評価できる。

(No.19) 施設の効率的整備【s：年度計画を大幅に上回る】

大規模修繕については、施設整備計画に基づき、建設以来の大規模修繕を実施し施設の長寿命化を図った。また、発注方法を工夫し、複数工事を一本化することで、当初見積価格より14百万円削減しており、大学の予算規模を考慮すると大いに評価できる。

小規模修繕については、教員及び校舎管理委託業者からの報告を基に、部品確保が懸念される設備や、重要設備に影響する恐れのある箇所など、修繕を要する箇所を常に把握し、着実に実施するとともに、新型コロナウイルス感染症対策として、トイレの洋式化や遠隔授業の導入に伴う全館Wi-Fi環境の整備を行った。今後も、災害発生時の避難所に指定されていることから地域住民が利用する視点も踏まえ、設備改修を計画的に進めていくことを期待する。

(No.20) 危機管理【s：年度計画を大幅に上回る】

安否情報システム（ANPIC）により、気象警報発令時における重要連絡など、速やかな情報伝達を行った。

新型コロナウイルス感染症対策のため、衛生委員会を毎月開催し、また、コロナ禍における災害への危機意識啓発を目的とした外部講師による研修会を開催した。

上越市の要請を受け、避難スペースについて、感染症対策に配慮し、従来の2倍の人数分のスペースを提供できるように支援体制を整備するなど、地域の災害対応に大きく貢献している。

(No.21) 人権の保護【b：年度計画を概ね実施】

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う授業や実習の制限及び遠隔授業に関する学生の不安や不満などを考慮し、「新型コロナウイルス対策とアカデミックハラスメント」について、外部講師による研修会を実施した。

ハラスメント防止及び意識啓発のため、学年ガイダンスや新任教職員研修の際にリーフレットを配布し、大学の取組の周知や、相談体制の紹介を行っている。

(No.22) 情報セキュリティ対策【b：年度計画を概ね実施】

令和2年2月にUSBメモリを紛失した事案への対処として、共有ドライブ内に領域単位で利用できる専用フォルダを新設し、個人情報やUSBメモリに記録しないこととした。

公立大学法人新潟県立看護大学 令和2年度 指標の進捗状況一覧

大項目	中項目	指標	R2目標値	R2実績値	達成度〔達成率〕	(参考) R1実績値
1 教育	(No.1) 学生の確保	◆No.2 志願倍率	4.3倍	3.1倍	△ [72.1%]	4.1倍
	(No.2) 教育の内容	(指標なし)				
	(No.3) 教育の実施体制	◆No.3 学生の授業内容満足度 (5段階評価の平均)	4.2点	4.3点	○ [102.4%]	4.6点
	(No.4) 学生への支援	◆No.1 国家試験合格率 ※注: ○ 概ね達成 (「直近の全国合格率平均値」以上~100%未満) △ やや遅れている (80%以上~「直近の全国合格率平均値」未満) ▲ 遅れている (80%未満)	100%	看護師: 99.0% (全国平均: 95.4%) 保健師: 97.8% (全国平均: 97.4%) 助産師: 100% (全国平均: 99.7%)	○ [99.0%] ○ [97.8%] ○ [100%]	看護師: 100% (全国平均: 94.7%) 保健師: 96.4% (全国平均: 96.3%) 助産師: 100% (全国平均: 99.5%)
		◆No.4 就職希望者の就職率 ※注: ○ 概ね達成 (「直近の公立大学医療福祉系学部」の全国平均値) 以上~100%未満) △ やや遅れている (80%以上~「直近の公立大学医療福祉系学部」の全国平均値) 未満) ▲ 遅れている (80%未満)	100%	98.9% (全国平均: 98.7%)	○ [98.9%]	100% (全国平均: 98.9%)
		◆No.5 新卒者 (全学) の県内就職率	69%	66.7%	○ [96.7%]	50.6%
		◆No.5 新卒者 (県内出身) の県内就職率	85%	77.9%	○ [91.6%]	61.1%
2 研究	(No.5) 研究水準及び成果等	◆No.6 著書件数	10件	6件	△ [60.0%]	7件
		◆No.7 論文件数	72件	49件	△ [68.1%]	57件
		◆No.7 論文 (査読付き) 件数	65件	42件	△ [64.6%]	51件
		◆No.8 学会報告件数	123件	97件	△ [78.9%]	121件
		◆No.9 論文の被引用件数	33件	70件	○ [212.1%]	37件
		◆ (参考) 大学における研究発表会の開催件数	4件	1件	▲ [25.0%]	4件
	(No.6) 研究実施体制の整備等	◆No.10 外部研究資金申請件数 ※新規	35件	26件	△ [74.3%]	32件
◆No.10 外部研究資金獲得件数	20件	24件	○ [120.0%]	21件		
3 地域貢献・国際交流	(No.7) 地域社会ニーズへの対応	◆No.11 公開講座 (開催件数)	25回	—	—	21回
		◆No.11 公開講座 (聴講者数)	1,720人	—	—	1,685人
		◆No.11 公開講座 (満足度) ※5段階評価の上位2位の割合	89%	—	—	88.8%
		◆No.15 マスメディアに取り上げられた件数 (新聞掲載数)	210件	268件	○ [127.6%]	281件
		◆No.12 看護職リカレント教育登録者数	19人	4人	▲ [21.1%]	45人
	(No.8) 地域社会との連携	◆No.13 研究指導等講師派遣数	81人	62人	△ [76.5%]	95人
		◆No.14 審議会等委員委嘱数	47人	43人	○ [91.5%]	42人
		◆No.16 臨床現場・行政機関と人事交流を行う人数 (2年以上の者)	1人	1人	○ [100.0%]	1人
	(No.9) 国際交流	◆No.17 海外大学との交流提携枚数	調査検討	—	—	—
		◆No.18 海外大学等との交流人数 (学生) ※新規	6人	—	—	2人
◆No.18 海外大学等との交流人数 (教員) ※新規		3人	—	—	2人	
4 業務運営	(No.10) 運営体制の改善	◆No.23 業務改善率 (監査指導等)	100%	指摘なし	—	指摘なし
	(No.11) 人事の適正化	◆No.19 教員が適正に配置されている科目群の割合	100%	100%	○ [100%]	100%
		◆No.20 客員・特任教員の人数	10人	10人 客員教授2人 特任講師8人	○ [100.0%]	10人 客員教授2人 特任講師8人
		◆No.21 任期制・年俸制を適用している教員の割合	13%	15.7% (任期6、年俸2(8/51))	○ [120.8%]	18.5% (任期8、年俸2(10/54))
		(指標なし)				
	◆No.22 事務局の対応学生満足度 (5段階評価の上位2位の割合)	79%	85.8%	○ [108.6%]	93.5%	
(No.12) 事務の効率化・合理化	(指標なし)					
5 財務	(No.13) 自己収入の増加	◆No.24 自己収入比率 (自己収入/経常収益)	33.0%	35.0%	○ [106.1%]	33.4%
		◆No.25 外部研究資金比率 (外部研究資金/経常収益)	2.3%	1.6%	△ [69.6%]	2.50%
	(No.14) 経費節減	(指標なし)				
(No.15) 資産の運用管理の改善	(指標なし)					
6 自己点検	(No.16) 自己点検・評価の実施	◆No.26 自己点検・評価に基づく改善率	100%	指摘なし	—	指摘なし
	(No.17) 情報公開の推進	◆No.27 ホームページへのアクセス件数	900,000件	1,337,856件	○ [148.7%]	1,047,141件
7 その他	(No.18) 法令遵守の推進	(指標なし)				
	(No.19) 施設の効率的整備	(指標なし)				
	(No.20) 危機管理	(指標なし)				
	(No.21) 人権の保護	(指標なし)				

<参考>指標の達成度: ○達成(100%以上) ○概ね達成(80%以上~100%未満) △やや遅れている(60%以上~80%未満) ▲遅れている(60%未満)

公立大学法人新潟県立看護大学の各事業年度の業務実績評価（年度評価）実施要領

平成 25 年 11 月 22 日
新潟県公立大学法人評価委員会
平成 30 年 6 月 14 日一部改正
令和 2 年 7 月 16 日一部改正

第 1 趣旨

この要領は、地方独立行政法人法第 78 条の 2 の規定及び当該規定に基づき定められた県規則（新潟県公立大学法人の業務運営並びに財務及び会計に関する規則）に基づき、新潟県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う公立大学法人新潟県立看護大学（以下「法人」という。）の各事業年度の業務実績に関する評価（以下「年度評価」という。）を適切に行うため、評価の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

第 2 評価の目的

評価委員会が行う評価は、法人の業務運営の自主的かつ継続的な見直し・改善を促し、もって、法人の業務の質的向上、業務運営の効率化、透明性の確保に資することを目的として行う。

第 3 評価の基本方針

年度評価は、中期目標の達成に向けた中期計画の進捗状況を確認する観点から行い、評価に当たっては、総合的かつ効率的に行うこととする。

なお、評価の際は、大学の教育研究の特性や大学運営の自主性・自律性に配慮すると共に、評価を通じて、法人の中期目標の達成に向けた取組状況を県民に分かりやすく示すよう努めるものとする。

第 4 年度評価の実施時期

年度評価は、当該事業年度終了後、概ね 5 月以内に実施するものとする。

第 5 年度評価の実施方法

1 評価手法

年度評価は、その目的を効率的かつ効果的に達成するため、業務実績に基づき法人が行う自己評価結果を踏まえ、項目別に評価の上、中期計画の進捗状況について総合的な評価（全体評価）を行う。

2 評価項目

評価委員会が行う評価項目は、表 1 のとおりとする。

3 評価基準

評価にあたっては、表 2 の取扱いを基本に、取組状況や計画の難易度、外的要因等、それぞれの状況を総合的に勘案して評価するものとする。

4 評価の手順

(1) 中項目別評価

ア 法人による実績報告・自己評価

法人は、事業単位及び指標単位の業務実績（年度計画における各事業の実施状況及び事業の成果に関する指標の達成度）をとりまとめ、表1に定める中項目ごとに、3に定める評価基準に沿って自己評価の上、業務実績報告書を作成し、評価の実施時期の属する年度の6月末日までに評価委員会に提出する。

なお、指標の達成度の算定基準は、表3のとおりとする。ただし、指標の性質から、表3により達成度を算定しがたい指標については、表3-2によるものとする。

イ 評価委員会による検証・評価

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書について、法人関係者からのヒアリング等により検証の上、表1で定める中項目ごとに、3に定める評価基準により評価する。

なお、評価委員会は、検証、評価を行う上で必要がある場合、法人に対して資料の追加提出を求めることができるものとする。

ウ 法人意見の聴取、申立て機会の付与

評価の透明性、正確性を確保するため、評価委員会は、法人の実績報告・自己評価に基づき実施した中項目別評価について、評価結果の決定に先立ち、法人に評価結果案を提示し、意見申立ての機会を付与する。

なお、法人は、当該案に対する意見を、書面により評価委員会に申し出るものとする。

エ 評価の確定

評価委員会は、中項目別評価案に対する法人意見を踏まえ、必要に応じて法人関係者の説明を受けて当該意見の適否を審議し、当該案に修正を加える等により中項目別評価を確定する。

(2) 大項目別評価

評価委員会は、(1)における中項目別評価結果を踏まえ、表1に定める大項目ごとに、3に定める評価基準により、中期計画の進捗状況を総合的に勘案して評価する。

(3) 全体評価

評価委員会は、項目別評価の結果を踏まえ、3に定める評価基準により、中期目標の達成に向けた中期計画の全体的な進捗状況を総合的に勘案して評価する。

第6 評価結果の取扱い等

1 評価結果の通知及び公表等

評価委員会は、評価結果を確定したときは、評価書としてとりまとめ、遅滞なく当該評価書を法人及び知事に送付するとともに新潟県ホームページ等で公表する。

2 評価結果の活用

法人は、評価結果を自らの業務運営等の見直し又は改善に活用・反映させていくものとする。

なお、評価委員会は、評価に際し、従前の評価結果等に対する法人の業務運営への活用・反映状況等を確認するものとする。

第7 評価方法の継続的な見直し

この要領については、年度評価の実施状況等を踏まえ、必要に応じて見直すものとする。

第8 その他

この要領に定めるもののほか、評価の実施に際して必要な事項は、評価委員会が別に定める。

附 則

この要領は、令和2年7月16日から施行し、同年4月1日から適用する。

(表1：年度評価における評価項目)

評価区分	全体評価	項目別評価		
		大項目別評価	中項目別評価	
評価対象	項目別評価を踏まえた、中期計画全体の進捗状況	中項目別評価を踏まえた、中期計画における次の7区分ごとの進捗状況	事業単位及び指標単位(小項目別)の業務実績を基に、法人が行う自己評価を踏まえた、中期計画における次の区分ごとの進捗状況 (中期計画)	
評価項目	中期計画全体	1 教育に関する事項 (中期計画 第1の1)	(1) 学生の確保	第1の1 (1)
			(2) 教育の内容	第1の1 (2)
			(3) 教育の実施体制	第1の1 (3)
			(4) 学生への支援	第1の1 (4)
		2 研究に関する事項 (中期計画 第1の2)	(1) 研究水準及び成果等	第1の2 (1)
			(2) 研究実施体制の整備等	第1の2 (2)
		3 地域貢献・国際交流に関する事項 (中期計画 第1の3)	(1) 地域社会ニーズへの対応	第1の3 (1)
			(2) 地域社会との連携	第1の3 (2)
			(3) 国際交流	第1の3 (3)
		4 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (中期計画 第2)	(1) 運営体制の改善	第2の1
			(2) 人事の適正化	第2の2
			(3) 事務の効率化・合理化	第2の3
		5 財務内容の改善に関する事項 (中期計画 第3)	(1) 自己収入の増加	第3の1
			(2) 経費節減	第3の2
			(3) 資産の運用管理の改善	第3の3
		6 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する事項 (中期計画 第4)	(1) 自己点検・評価の実施	第4の1
			(2) 情報公開の推進	第4の2
		7 その他業務運営に関する事項 (中期計画 第5)	(1) 法令遵守の推進	第5の1
			(2) 施設の効率的整備	第5の2
			(3) 危機管理	第5の3
			(4) 人権の保護	第5の4
(5) 情報セキュリティ対策	第5の5			

※ 中期計画の第6から第10に係る実績については、全体評価の際に参考情報として用いる。

(表2：年度評価における評価基準)

評価区分		評定	標 語	評価の目安
項目別評価	中項目別評価	s	年度計画を大幅に上回る	特に優れる若しくは顕著な成果
		a	年度計画を上回る	上回る若しくは十分な実施
		b	年度計画を概ね実施	実施
		c	年度計画を十分に実施せず	下回る若しくは実施が不十分
		d	年度計画を大幅に下回る	特に劣る若しくは実施せず
	大項目別評価	S	中期計画の進捗は優れて順調	大項目（7区分）別に、中期計画の進捗状況について、中項目別評価から総合的に勘案し、評価
		A	中期計画の進捗は順調	
		B	中期計画の進捗は概ね順調	
		C	中期計画の進捗はやや遅れている	
		D	中期計画の進捗は遅れている	
全体評価		中期計画の進捗は優れて順調 中期計画の進捗は順調 中期計画の進捗は概ね順調 中期計画の進捗はやや遅れている 中期計画の進捗は遅れている	中期計画全体の進捗状況について、項目別評価から総合的に勘案し、評価	

(表3：指標の達成度の算定基準)

	符号	標 語	達成度の算定基準
指標の達成度	◎	達成	達成率 100%若しくは100%以上
	○	概ね達成	達成率 80%以上 100%未満
	△	やや遅れている	達成率 60%以上 80%未満
	▲	遅れている	達成率 60%未満

(表3-2：実施要領第5の4(1)ア表3の基準を適用しない指標の達成度の算定基準)

指 標	符号	標 語	達成度の算定基準
「国家資格の取得率」の達成度 《参考：評価方法》 ・看護師合格率 ・保健師合格率 ・助産師合格率	◎	達成	合格率 100%
	○	概ね達成	合格率「直近の全国合格率平均値」以上 100%未満
	△	やや遅れている	合格率 80%以上「直近の全国合格率平均値」未満
	▲	遅れている	合格率 80%未満
「就職希望者の就職率」の達成度	◎	達成	就職率 100%
	○	概ね達成	就職率「直近の公立大学医療福祉系学部における就職希望者の就職率の全国平均値」以上 100%未満
	△	やや遅れている	就職率 80%以上「直近の公立大学医療福祉系学部における就職希望者の就職率の全国平均値」未満
	▲	遅れている	就職率 80%未満

新潟県公立大学法人評価委員会 看護大学部会委員

(五十音順・敬称略)

選出分野	氏 名	現 職
会計	かしろ さとこ 神代 聡子	公認会計士・税理士
地域・経営	かつしま あさこ 勝島 朝子	株式会社勝島経営研究所 ビジネスカツシマ代表取締役
教育・研究	かながわ かつこ 金川 克子	石川県立看護大学 名誉教授
教育・研究	【委員長・部会長】 げじょう ふみたけ 下條 文武	新潟大学 名誉教授